

文学史

『徒然草』とは

佐渡高等学校 国語総合（古典）



『徒然草』とは①

■ 分類 随筆

■ 成立 鎌倉時代

(十四世紀)

■ 作者 兼好法師



『徒然草』とは ② - 1

- 約二四三段からなる随筆で、あらゆる事柄に鋭い批評を向ける中世の隠者文学の代表作。
- 代表的なテーマは「仏教的無常観」「人間の観察・理解」「考証・懐旧」に関するもの。
- 平安時代の文体と和漢混交文を使い分ける簡明な文章。



『徒然草』とは② - 2

復習

【出家と隠者文学】

- 出家した者のなかには、世捨人ならではの文学作品を残した者もいる。

○ 隠者文学の例

- ・ 西行法師 『山家集』
- ・ 鴨長明 『発心集』 『方丈記』
- ・ 兼好法師 『徒然草』



『徒然草』とは② - 3

【仏教的無常観】

仏教的無常観：

すべてのものは絶えず変化しており、永遠・不変のものは何一つないという考えかた。

日本の古典文学の中には、この考えかたがよく見られる。



『徒然草』とは② - 4

【仏教的無常観】

(例) 『平家物語』より

祇園精舎の鐘の声、

諸行無常の響きあり。

娑沙羅双樹の花の色、

盛者必衰の理をあらはす。

おごれる人も久しからず、

ただ春の夜の夢のごとし。

猛き者も遂にはほろびぬ、

偏に風の前の塵に同じ。



『徒然草』とは② - 5

【徒然草の文体】

和文（平安和文） ……

平安初期から発達し、かな文字を中心に書かれる日本独自の文体。中国語をもととする「漢文」の対義語。

和漢混交文 ……

平安後期から発達。和文の文法に即しながらも漢語を多く交える。現代の日本語のもととなる。



『徒然草』とは③ 1

■ 分類
随筆

■ 成立
鎌倉時代

（十四世紀）

■ 作者
兼好法師

（卜部兼好）



『徒然草』とは③ - 2

【随筆とは】

随筆：

筆者が見聞きしたことや考えたことなどを自由につづった作品。

日本三大随筆

- ・ 清少納言の『枕草子』
- ・ 鴨長明の『方丈記』
- ・ 兼好法師の『徒然草』



『徒然草』とは③ 1

■ 分類 随筆

■ 成立 鎌倉時代

(十四世紀)

■ 作者 兼好法師



『徒然草』とは④ - 2

【兼好法師とは】

■ 鎌倉時代の歌人、随筆家。

■ 俗名（出家前の名）は「卜部兼好」。また「吉田兼好」とも呼ばれる。

■ 南北朝時代の「和歌四天王」に数えられ、三つの勅撰和歌集に歌が採録されている。

